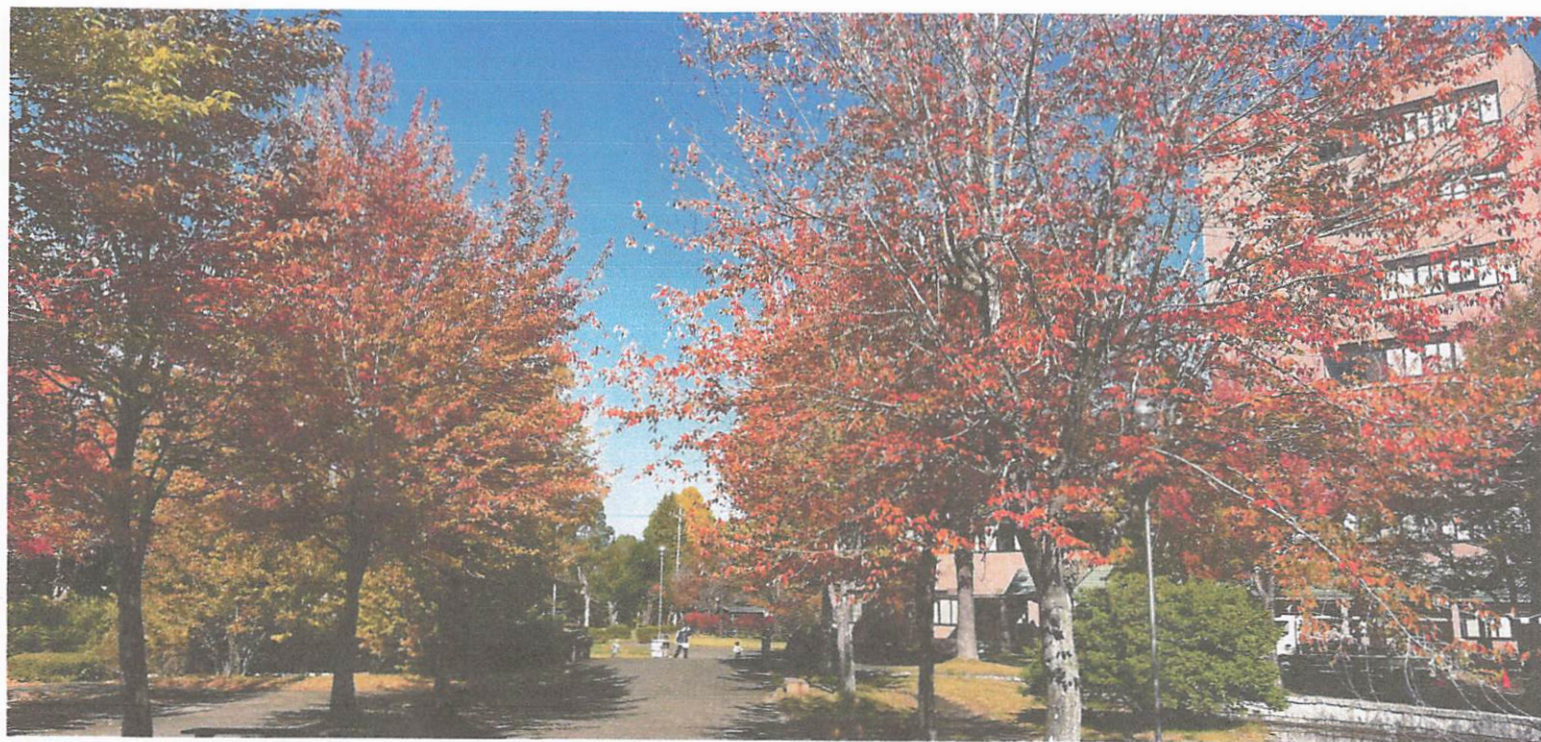




同窓会長あいさつ

茨城大学農学部同窓会
会長 大舘 徹

令和6年5月の就任以降、同窓会会員および農学部のご支援・ご協力を頂きながら、大過なく同窓会長を務めることができましたこと、まずは御礼申し上げます。

次に第19号の同窓会報の発行にあたり、まずは令和7年度の活動経過を簡単に説明させていただきます。6月28日には農学部と共催でオープンキャンパスを開催し、高校生や父兄のみなさまにご来部いただきました。また年度末には、学業成績の優秀な学生のみなさんを対象に農学部同窓会表彰を予定しているところです。

さて令和6年度から7年度にかけまして、茨城大学では同窓会がかかわる大きな動きがありました。9月24日のイバダイ・サステナ・パートナーズ（略称「イバサス」）の設立です。同窓会のみなさまへのご案内が遅くなりましたが、農学部同窓会としても寄付により当面の活動財源の一部を支援するとともに、会長が運営委員として活動に参画しております。イバサスの構成員としては卒業生、在校生、教

職員、保護者、企業など多様なステークホルダーが想定されており、大学が地域社会と一体となって次世代の育成や持続可能な地域社会の実現をめざすとされています。11月29日には設立記念交流会が盛大に開催され、実質的に活動が開始されました。1万会員を目指して大学を挙げて頑張っておりますので、実りある組織・活動となるよう、農学部同窓会のみなさまにおかれましては、まずは会員登録をお願いできればと存じます。

最後に私事の類ではございますが、農学部との関係について触れさせていただきます。私は、卒業後は茨城県に入庁しました。地元の行政機関ということもあり、農学部の先生方には継続してご指導を頂きました。記憶をたどると、30代で4か月間アメリカの大学で研修をする機会を得た際には、故谷口晋先生にUC Davisを紹介して頂き、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。また、出先機関での記帳普及の取り組みでは塩光輝先生開発の農業簿記システムの活用や、最近では有機農業の拡大にあたり小松崎将一先生に多くの助言を頂くなどお世話になってまいりました。

同窓会会員のみなさまにおかれましても、農学部との関係が継続され、必要に応じて適切にアクセスできること、それによって会員および農学部が発展することを祈念して会報発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。



学部長あいさつ

農学部長 宮口 右二

早春の候、同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年も自然災害が多く、特に夏から秋にかけては、台風や線状降水帯による豪雨が各地に甚大な被害をもたらしました。農業現場でも作物の生育に影響が出るなど、気候変動を痛感する一年となりました。

また、経済面では輸入資材の価格高騰が農業経営に影響を与えており、特に肥料や飼料の価格上昇は農業や畜産者の負担を増大させています。お米だけでなく、国内の安定的な食料生産体制の確保が、今後ますます重要になってくるでしょう。こうした状況の中、農学部では国内外の教育研究機関などと連携し、これら課題解決に貢献できる人材の育成に力を入れています。

さて、卒業生の進路については、引き続き売り手市場が続いており、就職・進学ともに順調です。特に就職率は全国の農学系学部の中でも高水準を維持しており、県内外の企業や自治体、農業関連団体など多様な分野で活躍しています。また、大学院への進学

者も増えています。在学生の状況ですが、今年度は農学部には169名が入学しました。昨年度から留学生の入学定員(4名)を設けており、今年度も3名が入学しました。2年生や3年生は、夏休みや第3クォーター(10月～11月)の「iOPクォーター」制度を活用し、インターンシップや海外研修、短期留学などに積極的に参加する者も増えてきました。現在、インドネシアのガジャ・マダ大学とは、カカオ(インドネシア産)を使ったオリジナルチョコレートの開発に取り組むなど、教育交流の成果が具体化しています。

次に、阿見キャンパス内にある7階建ての実験研究棟ですが、平成5年に建物が完成して以来、すでに30年以上が経過し、設備等の老朽化も進んでいます。大学では長期インフラ改修計画を策定しており、本年度より電気・水道などのインフラや外壁等の改修が始まりました。また、未舗装だった学生駐車場も、来年度よりアスファルトで舗装され、さらに太陽光パネルを設置したカーポートが設置される予定です。その他、阿見キャンパス内には対応すべき箇所が多々ありますが、段階的に学内整備を進めて参ります。

このように本学農学部の教育・研究活動が充実できているのは、同窓生の皆様のご支援とご協力の賜物と考えています。今後とも、母校のさらなる発展のため、皆様の温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

鋤秋祭報告

茨城大学農学部の学園祭「鋤耕祭(しゅうこうさい)」が、令和7年10月18日(土)・19日(日)の2日間にわたり開催されました。期間中は天候にも恵まれ、在学生や卒業生、地域の方々、受験生やその保護者など多くの来場者でキャンパスは大いににぎわいました。

会場では、農学部ならではの企画として「いもほり体験」や「新鮮野菜の販売」が行われ、子どもから大人まで楽しめる催しとして好評を博しました。また、馬術部による引馬体験や、ステージ・教室でのコンサート、各学生団体による模擬店など、多彩な企画が展開され、来場者は思い思いに学園祭を満喫していました。

さらに、18日(土)には「農学部秋のミニオープンキャンパス」も同時開催され、模擬授業や研究室見学ツアーを通じて、農学部の教育・研究内容を直接体験できる貴重な機会となりました。普段とは異なる活気あふれる農学部キャンパスの魅力を、多くの方々に感じていただけた鋤耕祭となりました。

